

令和6年度 学校評価・保護者アンケート

評価1 (1点)	…	全くできていない (そう思わない)
評価2 (2点)	…	あまりできていなかった (あまりそう思わない)
評価4 (4点)	…	おおむねできていた (大体そう思う)
評価5 (5点)	…	よくできていた (そう思う)

	実践分野	具体的な実践内容	評価平均
1	開かれた学校	ホームページや学校公開デー等を通じて学校の取組や子どもの学校生活の様子が発信されていた。	4.1
2	家庭との連携	担任からの連絡や写真、参観、研修等を通して、幼児の学校生活の様子がわかり、家庭での関わり方、発達、進路等の参考になった。	4.9
3	幼児期の教育	幼児一人一人の特性や生活体験に応じて、教材や生活環境を工夫し、幼児が興味を持って取り組める活動が行われていた。	4.8
4	安心・安全	各種避難訓練や交通安全教室、日々の保育等を通して、幼児が安全に安心して生活できるように取り組まれていた。	4.5
5	健康教育 体力・運動能力の向上	学校医等と連携し、幼児または保護者に対し、健康な生活、疾病等の予防に必要な知識や行動についての情報提供、継続的に清潔指導や運動遊びなどの活動が行われていた。	4.6
6	人権教育	幼児一人一人の人権を尊重し、個々の思いや考えを大切にしながら、命の大切さや豊かな人間関係づくりにつながる活動が行われていた。	4.5
7	図書の活用	読書活動の充実（絵本の購入、図書の整理、便りや掲示板での本の紹介等）が図られ、家庭での絵本の読み聞かせなどにつながった。	4.7
8	特別支援教育 環境整備	視覚的な情報（イラスト・写真など）や手話、補聴援助システム（ロジャー）等を活用し、幼児が理解しやすい、聞こえやすい支援や配慮がなされていた。	4.8
9	特別支援教育	個別の教育支援計画作成時には、本人・保護者の願いを聞き取り、関係機関との連携による長期目標や支援内容等について話し合うことができた。	4.7
4	特別支援教育	個別の指導計画（あおぞら、まなざし）では、実態把握に基づいた短期目標の設定、支援方法、評価が適切に行われており、今後の成長発達につながるものであった。	4.7
11	<u>保育相談部のみ</u> 保育相談部の教育	集団保育では、生き物の飼育・クッキング・自然物に触れるなどの様々な体験活動が取り入れられていた。	5
4	<u>保育相談部のみ</u> 保育相談部の教育	個別保育では、おやこの日誌を活用したり、保護者と話し合う時間を設けるなどして保護者と連携を深めながら、個々の子どもの興味・関心や発達に合わせた内容で行われていた。	5
4	<u>幼稚部のみ</u> 幼稚部の教育	なかよし遊びなどでの異年齢保育を毎日設定し、友達と互いに協力したり、友達の気持ちに共感したり、友達と折り合いを付けたりする経験ができていた。	4.9
14	<u>幼稚部のみ</u> 自立活動	個別の指導（担任・発音・リズム・聴能）は、一人一人の発達や課題に応じたねらい、内容、方法で行われていた。	4.9
15	<u>幼稚部のみ</u> 食育	幼児が食への関心や知識が高められるように、季節感や行事に配慮した給食、野菜などの栽培活動、クッキング、親子給食等を通して、体験的な活動が実施されていた。	4.9
16	<u>幼稚部のみ</u> 交流及び共同学習	幼稚部と地域の保育園、近隣の高齢者施設、県立高等学校との交流により、大きな集団やさまざまな人達との遊びややりとりが体験できていた。	4.8